

高知市立自由民権記念館企画展 「志国高知 幕末維新博」 関連企画展 第二弾

# 幕末・明治の錦絵展

期間 2017 (平成29) 年  
**4月29日土・祝** ~  
**7月2日日**

■休館日 月曜日 (祝日と重なる場合はその翌日)  
 ■観覧料 常設展・企画展共通  
 個人320円 団体(20人以上)250円/1名  
 高校生以下、65歳以上、療育手帳及び各種障がい者手帳所持者  
 とその介護者1名は無料

会場 **高知市立自由民権記念館**  
 1階 自由ギャラリー

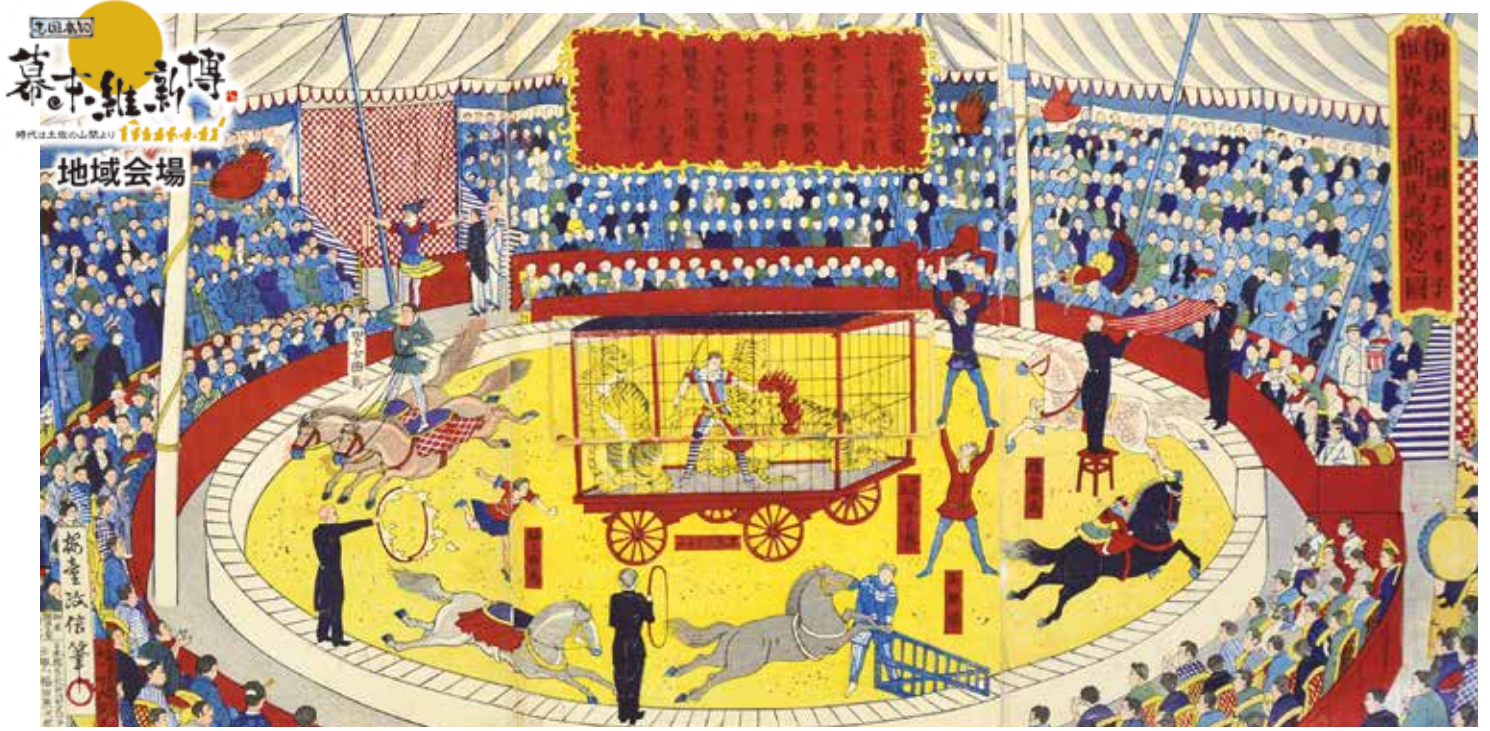
時間 午前9時30分~午後5時

 **高知市立自由民権記念館**

〒780-8010 高知市棧橋通4丁目14番3号  
 TEL 088-831-3336 FAX 088-831-3306 HP <http://www.i-minken.jp/>

主催 高知市立自由民権記念館  
 後援 高知新聞社 朝日新聞高知総局 毎日新聞高知支局 読売新聞高知支局  
 NHK高知放送局 RKC高知放送 KUTVテレビ高知  
 KSSさんさんテレビ エフエム高知  
 KCB高知ケーブルテレビ





高知市立自由民権記念館企画展

# 幕末・明治の 錦絵展



世事全般のことを描く「浮世絵」は、肉筆画（筆で書いたもの）から始まりましたが、版画の技法の発達により、大量生産されるようになりました。大量生産したものを売るためには大衆の要求を反映したものでなければなりません。当時の「プロマイド」といえる美人画や歌舞伎役者、現代なら観光地の絵葉書に当たるであろう風景画、当時の人々の耳目をそばだてさせた事件などが、題材として多く取り上げられるようになっていきます。

中でも錦絵は、1765（明和2）年以降に確立された多色摺りの技術を用いて摺られたものを指します。出資者は版元である地本問屋。絵師が版下と呼ばれる原画を描き、彫師が絵師の描いた絵を板に彫り、最後に摺師が仕上げるという分業によって生み出されるもので、いずれの課程にも高水準の技術が要求されました。こうして出版された錦絵は、江戸市中の「絵双紙屋」などで販売され、庶民の手にするところとなりました。

今回の展示では、明治憲法や国会開設を中心とする当館のコレクションに加え、(株)灘アートギャラリー様のご厚意により、迫力ある戊辰戦争の情景やさびやかな文明開化の錦絵が出品されることとなりました。また、高知市民図書館近森文庫のコレクションの中から、「最後の浮世絵師」といわれる小林清親の、明治初期の情趣あふれる風景を描いた作品も展示します。

記念講演

## 「激動期の浮世絵」

- 平成29年 6月17日(土) 午後3時から
- 自由民権記念館 1階民権ホール

【講師】 なかたに ゆり 中谷 有里さん（高知県立美術館学芸員）

【プロフィール】

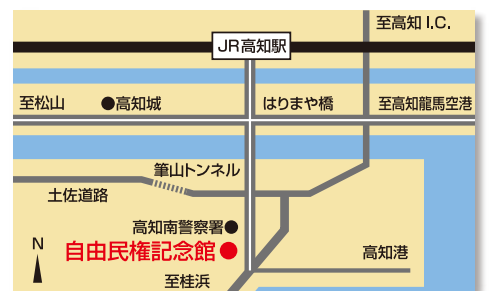
東京大学大学院人文社会系研究科博士前期課程修了。  
2014年4月より高知県立美術館の学芸員として日本美術や郷土美術を中心とするコレクション展、企画展を担当。



### 講演要旨

社会と密接に係わりながら庶民に親しまれてきた錦絵。幕末維新の激動期には錦絵にもさまざまな変化が訪れました。揺れ動く時代ならではの錦絵の魅力について、美術史の観点を交えてお話をさせていただきます。

高知市立 自由民権記念館



- 【車利用】 JR高知駅より約10分 高知ICより約15分 駐車場(無料)車約60台、バス6台
- 【路面電車利用】 JR高知駅より約15分 「棧橋通4丁目」または「棧橋車庫前(自由民権記念館前)」下車
- 【バス利用】 JR高知駅より約15分 「棧橋通4丁目」下車